

平成22年度

教育に関する事務の管理  
及び執行状況の点検及び評価報告

苅田町教育委員会

### (1) 教育委員会の事務の点検・評価制度について

平成20年4月から施行された『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正により、教育委員会は、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行について点検及び評価を行い、報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することになりました。

苧田町教育委員会では、地域の教育課題や教育ニーズに応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これらに基づいて実施した政策について、その必要性、効率性等の観点から自ら点検・評価・公表することは、町民に対する説明責任を果たすことで、町民の信頼を高め、開かれた教育行政を推進していく上で非常に重要なことであると考えております。

そこで、平成22年度の教育委員会活動を、

- I 教育委員会の活動
- II 教育委員会が管理・執行する事務
- III 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

の3点から教育委員会自らがその進捗状況・達成状況等について、点検・評価を実施し、報告書を作成したものです。

なお、IIIについては、第3次苧田町総合計画後期基本計画に掲げた具体的な施策内容等と照らして、点検・評価を行いました。

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### I「教育委員会の活動」

評価項目	内 容	点 検 ・ 評 価
	教育委員会会議の	・苧田町教育委員会会議規則に基づき、開催した。 平成22年 4月26日 第4回教育委員会 議案 人事、団体登録

教育委員会の会議の運営に関すること	開催回数	平成22年 5月28日 第5回教育委員会 議案 6月補正予算、人事 平成22年 7月 5日 第6回教育委員会 議案 人事、施設臨時休館、団体登録 平成22年 7月12日 臨時第2回教育委員会 議案 生徒指導上の問題 平成22年 8月 9日 第7回教育委員会 議案 教科書採択、専決処分、団体登録 平成22年 9月 3日 第8回教育委員会 議案 工事請負契約、9月補正予算、条例一部改正 平成22年10月 4日 第9回教育委員会 議案 教育委員長選任 公民館運営審議会委員選任 平成22年10月28日 第10回教育委員会 議案 教育長選任、平成21年度教育委員会評価報告書 平成22年11月26日 第11回教育委員会 議案 12月補正予算、条例及び規則の制定、学校プール管理体制指導 平成22年12月22日 第12回教育委員会 議案 団体登録 平成23年 1月14日 臨時第1回教育委員会 議案 苅田町立中学校の入学式 平成23年 1月21日 第1回教育委員会 連絡・報告事項 平成23年 2月28日 第2回教育委員会 議案 平成23年度予算案、3月補正予算、指定管理者、団体登録 平成22年 3月25日 第3回教育委員会 議案 人事異動
	定例会 12 回 臨時会 2 回	情報提供 ・教育委員会には、次長・課長・課長補佐・係長・指導主事が参加し、議案説明や事務報告を行っている。
教育委員会の会議の公開に関すること	教育委員会会議の傍聴者の状況	なし
	広報・公聴活動、会議録の公開の状況	・教育委員会開催告示をし、周知を図った。 ・会議録の開示請求はなかった。

<p>教育委員の自己研鑽に関する事</p>	<p>研修会への参加状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内で開催された教育委員を対象とした研修会に参加した。        県市町村教育委員会女性教育委員研修会        教育委員等人権教育研修会        県教育委員長研修会</li> <li>・京築地区で開催された教育委員対象の研修会に参加した。        京築市町教育委員会教育委員研修会        教育力向上福岡県民フォーラム</li> </ul>
<p>学校その他教育施設に対する支援等に関する事</p>	<p>学校訪問</p>	<p>・入学式・運動会・研究発表会・卒業証書授与式等学校行事に合わせて、個別に訪問した。</p>
	<p>所管施設の訪問</p>	<p>・所管施設で行われる諸行事等に、個別に訪問した。</p>

## Ⅱ「教育委員会が管理・執行する事務」

	評価項目	内 容
1	教育行政の運営に関する基本方針を定めること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度苅田町小・中学校重点施策について、審議し策定を行った。</li> <li>・教育改革プログラムの進捗状況及び平成22年度取組内容について確認を行った。</li> <li>・平成22年10月1日、平成21年度諮問した「これからの町教育施策のあり方」について苅田町立小・中学校教育問題審議会から答申をうけた。</li> </ul>
2	教育委員会規則及び規定を制定し、又は改廃すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成22年9月3日</li> <li>・苅田町立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則</li> <li>②平成22年11月26日</li> <li>・町民温水プールの設置、管理及び運営に関する条例</li> <li>・町民温水プールの設置、管理及び運営に関する条例施行規則</li> </ul>
3	教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月補正予算</li> <li>9月補正予算</li> <li>12月補正予算</li> <li>平成22年度当初予算</li> <li>3月補正予算</li> </ul>
4	教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度はなかった。</li> </ul>
5	県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度の教職員人事に際し、学校長の具申を受け、勤務年数、実績、適正配置等を勘案し、京築教育事務所に内申を行った。</li> </ul>
6	教育委員会の所管に属する各種委員会の委員等の任命又は委嘱に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 苅田町教育委員会</li> <li>2. 京都地区1市2町結核対策委員会</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 荻田町立学校給食運営委員会</li> <li>4. 荻田町立学校給食委員会</li> <li>5. 荻田町心身障害児就学指導委員会</li> <li>6. 荻田町奨学生選考委員会</li> <li>7. 荻田町社会教育委員</li> <li>8. 荻田町立公民館運営審議会</li> <li>9. 荻田町文化財保護審議会</li> <li>10. 荻田町図書館協議会</li> <li>11. 荻田町スポーツ振興審議会</li> <li>12. 荻田町体育指導委員</li> <li>13. 荻田町立小・中学校教育問題審議会</li> <li>14. 荻田町教育委員会外部評価委員会</li> </ul>
7	教科用図書の採択の決定に関すること	平成23年度使用小学校教科用図書採択
8	通学区域を設定し、又は変更すること	・新たな設定や変更はない。
9	文化財を指定し、又は指定を解除すること	・指定解除はない。
10	<p>請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○請願・陳情に関すること</li> <li>・片島小学校複式学級解消に関する件(片島小学校複式解消期成会)</li> <li>○訴訟に関すること</li> <li>・平成22年度はなかった。</li> </ul>

### Ⅲ「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」

「苧田らしさ」を実現するための人づくりや芸術・文化づくり、地域に根ざしたまちづくりを目指します。

そのために、教育環境の整備、充実を図るとともに、交流・体験学習など多面的な教育内容の充実を図り、子どもたちの個性を伸ばし「生きる力」を育みます。

学校・家庭・地域が一緒になって支えあう仕組みづくりを通して、学校を地域に開かれたものとし、地域コミュニティの場となるように、その活用を図ります。

また、生涯学習活動やスポーツ・文化活動の充実に努め、町民が地域や世代を超えて、集い、学び、語り合い、いきいきと活動ができるようにするとともに、その活動を支援する指導者等の育成を図り、町民や団体の主体的な活動を支援します。

本町の伝統文化を保存・継承しつつ、質の高い芸術文化に触れる機会の充実を図るとともに、文化財の保護・活用に努めることによって、郷土を誇りに思う、心豊かなまちづくりを進めます。

◇ 評価項目は、「苧田町後期基本計画2006－2010 第3次苧田町総合計画」の基本事業に示されているもので、項目欄の数字は、基本事業番号です。

有効性	効率性	達成度	総合評価
施策や運営方針、町後期基本計画の目標成果が得られているかを評価する	事業が効率的に実施できたかを評価する	計画通り達成しているかを評価する	3つの評価項目を勘案し、総合的に評価を行う。
評価判断基準	評価判断基準	評価判断基準	評価判断基準
A 得られている	A 実施できている	A 期待を上回る	A 達成できた
B おおむね得られている	B おおむね実施できている	B おおむね期待通り	B おおむね達成できた
C あまり得られていない	C 実施できていない	C 期待を下回る	C 達成できなかった

# 1 生きる力を育てる教育の充実

施策の方針	就学前教育を含め教育環境の整備・充実や交流・体験活動の機会を通して子どもたちがたくましく生きる力を育てるとともに、地域に開かれた学校づくりを進める。						
基本事業	主な取組	内容・成果	評価				評価委員コメント
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
3-1-1 学力の充実と豊かな人間性を育てる教育の充実	少人数学級・専科教員の導入により、子どもたちの確かな学力の向上・定着を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荇田小2馬場小3南原小3与原小5計13名</li> <li>・中学校各5名ずつ計10名</li> <li>・片島小学校複式解消1名 合計24名配置(3名)</li> <li>・小学校音楽専科4を配置</li> <li>・体育専科をやめ、教育相談支援3名を配置</li> <li>・町外国語指導助手(ALT)5名配置(1名増)</li> <li>・ふくおか学力アップ推進事業により、荇田小・馬場小・南原小・与原小に県費による理科専科を1名ずつ配置</li> <li>・「小学生への学習案内」を作成し、5・6年生数分各学校に配布</li> </ul> <p>○町雇用教員等の配置は計画どおり、実施できている。</p> <p>○平成22年度の全国学力・学習状況調査・福岡県学力実態調査において、小学校では4観点中3観点で全国平均を上回っているが、中学校では4観点とも下回っている。</p>	A	A	B	A	町雇用教員及び県費による専科教員の配置が計画的に実施されている。また、昨年度の「中学生への学習案内」に引き続き、「小学生の学習案内」の作成・配布による学力向上に向けての努力も認められる。しかし、学力実態調査における中学校の結果(全国平均を4観点とも下回っていること)について、その検証と今後の対応が課題である。また、確かな学力向上を図るために今後、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した教育効果の向上を図る</li> <li>・教員のICT活用技術の向上、合同研修</li> <li>・小・中学校の連携の強化</li> <li>・家庭教育との連携</li> </ul> などの施策も検討していただきたい。
	お互いの文化の違いを理解しあう国際理解教育の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では、アジア太平洋子ども会議イン福岡によりシンガポール・ニューカレドニア両国の子どもたちが7泊8日のホームステイを実施し、荇田町の子どもたちと交流を行った。7月20日には中央公民館で歓迎式を行った。100名ほどの町民の参加があり、事業について広報することができた。</li> <li>・アメリカ合衆国キャントン市からの訪問団が5月30日から5日間の日程で滞在。4名の高校生がホームステイや中学校訪問を行った。</li> <li>・小・中学校では、ホームステイ受け入れ国について総合的な学習の時間で学習を行っている。</li> </ul>	A	A	A	A	昨年度は新型インフルエンザ流行の影響により、実施できなかったが、22年度は相互のホームステイの実施や、総合的な学習の時間を活用した国際理解教育を着実に進めていることが認められる。事業の積極的な推進が今後も期待される。



<p>自然環境の保全をテーマとし、人や自然とふれあう体験的学習を通じた環境教育を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苅田小・馬場小の5年生がガザミの放流や清掃活動を行った。</li> <li>・南原小の5年生が苅田漁協と岸壁の壁画製作を行った。</li> <li>・馬場小・南原小の5年生が殿川メダカ飼育による環境学習を行った。</li> <li>・与原小、白川小で米作体験を実施</li> <li>・馬場小・与原小・片島小で校区クリーン作戦を実施</li> </ul> <p>○各学校では実践を継続、発展させている。それぞれの取組を町広報誌や学校便りで広めている。</p>	A	B	B	B	<p>小学校においては昨年度に引き続き着実な実践が行われており、また広報誌や学校便りを通じて情報公開も展開されている点は評価したい。しかし、昨年度同様、他学年や中学校における体験的な学習や環境教育の実践については明らかではない。</p>
<p>人を思いやり、ものを大切にすることを育てる福祉教育の推進を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小中学校が福祉教育協力校となり、総合的な学習の時間において車椅子体験や老人クラブ等との交流会を行った。</li> </ul> <p>○苅田町社会福祉協議会事務局員が学校に出かけ、連携している。年度末全学校との協議会を行い、反省及び次年度の計画について話し合っている。</p>	A	B	B	B	<p>総合的な学習の時間の活用や社会福祉協議会との連携による福祉教育の取り組みが継続的に実践されていることが認められる。今後は各校の独自の、或いは定常的なカリキュラムを構築して福祉教育の更なる展開を期待する。</p>
<p>児童・生徒の社会参加を図るため、体験学習や職業教育の整備充実を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馬場小、南原小、与原小、片島小でキッズマーケットを実施。</li> <li>・片島小学校4～6年生が小学生集団宿泊体験事業で海の中道少年自然の家で4泊5日の集団宿泊を行い、集団生活や体験活動を経験</li> <li>・全小学校5年生で日産モノづくり体験学習を実施</li> <li>・両中学校で、2日間の職場体験を実施</li> </ul> <p>○新キャリア教育の視点から、小・中学校が連携した取組が行えるように指導内容・方法について検討する必要がある。また、今後キッズマーケットや中学生の職場体験を町民へ広く広報することで家庭・地域への啓発を行っていく。</p>	A	A	B	A	<p>社会参加を図る試みとして、またキャリア教育の観点から、本取組の継続・発展は大いに評価できる。今後も積極的に推進して頂きたい。</p>

	障害児に対する正しい理解と認識を深めるなど、障害に配慮したやさしい教育の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会と連携し、福祉教育や総合的な学習の時間においてアイマスクや車椅子体験を行った。</li> <li>・苺田小南棟トイレ改修にともない、多目的トイレを設置した。</li> </ul>	B	A	B	B	福祉教育の継続的実践やハード面の整備は今後も推進して頂きたい。またこの事業に対する地域の人々や教師の認識、理解が重要であるため、先生方の一層の理解と認識の深化を期待する。
	人権を尊重する教育の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度は、日程等の都合により教職員人権研修会を実施することができなかった。</li> <li>・各学校では人権教育推進計画を作成し、「かがやき」や「あおぞら」を活用した人権学習を行うとともに、職員研修も実施した。</li> <li>○「かがやき」「あおぞら」を位置づけた年間指導計画を各学校で作成している。</li> </ul>	A	B	B	B	人権教育推進計画の作成、「かがやき」や「あおぞら」を活用した人権学習、教員の研修、年間指導計画の作成、これらの継続的な取組は高く評価する。
	特色ある教育課程づくりとして小・中一貫教育の検討を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2中学校の英語教師が、校区の小学校に行つて、6年生に英語の授業を行った。(各小学校1回または2回ずつ)</li> <li>・町小・中学校教務主任会7名・教育委員2名・管理職等計14名が小・中連携教育について宗像市立日の里西小学校を視察し、共通認識をもつことができた。</li> </ul>	A	B	B	B	小・中一貫教育あるいは連携教育の在り方は多様で、全国的にも多くの実践が公開されている。22年度における視察の成果報告と今後の検討の方向性を明示し、苺田町の子ども現状や教育理念に根差した教育の在り方についての今後の検討に期待する。
3-1-2 教員の資質向上の推進	演習・実習・体験型の町主催の研修プログラムを策定し、教職員の資質向上に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入門DVD編集・アートスクール・考古学ツアー・中学校ICT活用・理科実験・QU調査・マナー講座の7講座に102名が参加(教職員は2年に1度参加対象)</li> <li>・前年のアンケートと教職員のニーズをもとに実用的ですぐ実践できる講座を開設したことで「参考になった」という評価が97.8%であった。</li> </ul>	A	A	A	A	教員の資質向上に向けた取り組みが熱心であることが伺え評価できる。教職員のニーズに対応しつつ実施されていることも高評価である。参加者を増やすことなど、今後の継続な取り組みを期待する。
3-1-3 開かれた学校づくりの推進	地域コミュニティの拠点として、学校を活用し、地域住民との交流を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区の懇談会やPTA主催行事において積極的に学校施設を活用した。</li> <li>・地域住民との交流を推進するため、「学校だより」を地区回覧板と一緒に回覧する取組も行っている。</li> <li>・第2次教育改革から来年度以降積極的にコミュニティスクールに取り組むようにという提言を受けた。</li> </ul>	B	B	B	B	文字通りの「地域コミュニティの拠点としての学校」づくりに向けた学校施設の活用や、交流推進のための広報活動が継続的に行われていることが認められる。このような基盤作りをさらに継続・発展させつつ、今後の「コミュニティスクール」への取り組みを進展させてほしい。

<p>外部講師として地域の人たちの活用を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間において老人クラブ等の地域の方々に講師を依頼。(昔の遊びの紹介、芋や野菜・米などの栽培活動の指導、等覚寺松会・苺田山笠や神楽の説明や指導)</li> <li>・片島小学校で俳句の指導</li> <li>・各学校で人材活用名簿を作成し、情報交換を実施</li> <li>・卒業生用リボンの制作指導</li> </ul> <p>○教育改革実行委員会2班により、人材リストを毎年更新して活用に努めている。</p>	A	B	A	A	<p>地域の人材の発掘と活用が着実に行われていることを大いに評価する。今後は、長期的展望をもって、次世代に繋がる豊かなまちづくりに資するよう計画的継続的に推進して頂きたい。</p>
<p>子どもたちをとりまく危険から守るために安全教育や不審者等への対策を充実させます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小学校で学校主催交通安全教室を年1回実施</li> <li>・教育委員会主催小学校1・2年生対象の交通安全教室を2学期後期に実施</li> <li>・防犯教室を実施</li> <li>・「子ども110番」ステッカーを引き続き、各学校に配布した。</li> <li>・非行防止コーディネーターによる登下校の安全対策を実施</li> <li>・昨年度全小中学校に防犯灯を設置。本年度馬場小に寄贈のされた1基を設置。</li> </ul> <p>○取組により、不審者情報は、H20年度30件、H21年度16件、H22年度11件に減少してい</p>	A	A	B	A	<p>交通安全教室、防犯教室、非行防止コーディネーターなど、危機管理対策が十分に行われていることは評価できる。不審者の減少は、これらの取組の成果と考えられ、今後も努力をお願いしたい。</p>
<p>子どもの安全・非行防止を目的として、町内の各団体と連携を図り、対策を強化します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区安全対策協議会(各小学校において名称は異なる)を年間2～3回実施し、学校からの説明及び区長・民生委員・老人クラブ等地域の方々と意見交流を行っている。</li> <li>・苺田町青少年育成会議と連携し、毎月夜間パトロールや街頭補導実施。また、小・中学校校門での朝の声かけ運動を6月と10月の年2回に増やして実施</li> <li>・青パト巡回による下校時の安全確保を実施。</li> <li>・「こども110番の家」ステッカー貼りを今年も依</li> </ul> <p>○青少年育成会議等と情報交換・共有に努めている。</p>	A	A	B	A	<p>朝の声かけ運動や青パト巡回など地道な取組がなされてることを評価する。また、安全対策協議会や青少年育成会議などとの情報交換・共有も、今後さらに深めることを期待する。</p>

<p>3-1-4</p> <p><b>教育環境の整備充実</b></p>	<p>老朽化してきた学校施設や設備の計画的改修を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荇田小学校南棟1階・2階トイレ・多目的トイレ工事</li> <li>・荇田小学校南棟1階床調整工事</li> <li>・与原小屋上涼化工事</li> <li>・片島小教室照明器具増設工事</li> <li>・南原小教室インターフォン設置工事</li> <li>・白川小渡り廊下設置工事</li> <li>・白川小・片島小 防球ネット設置工事</li> <li>・荇田町シルバー人材センターに小中学校の営繕業務について委託している。(年間226日)</li> <li>・校舎改築については、マスタープランの計画スケジュールどおりには進んでいないが、実施に向け検討している。</li> </ul>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>B</p>	<p>マスタープランのスケジュールからいえば、実施が遅れているが、老朽化した施設設備に対する認識は十分に把握されており、シルバー人材センターに営繕業務を委託し、徐々に進んでいると判断される。今後は優先度、緊急度の高いものから確実に教育環境の整備の充実が図れるよう期待する。</p>
	<p>障害の状態、発達段階に応じた指導・相談の充実など特別支援教育や交流活動の充実を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学指導委員会を4回開催。</li> <li>・京築教育事務所や築城特別支援学校等と連携しながら、就学指導委員会を定期開催し、相談支援体制を整えている。</li> <li>・「荇田町の特別支援教育」パンフレットを作成した。(平成23年度に配布)</li> </ul>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>就学指導委員会の定期的開催や「荇田町の特別支援教育」パンフレット作成など、支援体制の整備や啓発活動をいっそう充実させることを期待する。</p>
	<p>子どもたち自身が、気軽に相談でき、自ら問題解決に取り組んでいけるような相談窓口の充実を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相談を開設</li> <li>・指導主事を配置し、電話での対応を行う体制をとっている。</li> <li>○年度当初各学校において、相談窓口について保護者へお知らせするように依頼している。また、小学校においては入学説明会で説明するようにしている。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>「子どもたち自身」を対象とした相談は、その方法等慎重な対応が求められる。今後、次の欄(カウンセラー等に関する事項)の取り組みと併せて、具体的な方法等検討する必要がある。以上のことを昨年度も指摘したが、この点の具体的対応が示されていない。本取組は「子どもたち自身が気軽に相談でき、自ら問題解決に取り組んでいける」ことを目指しているはずである。</p>

	<p>保護者・専門的な資格を持つスクールカウンセラー等とともに、悩みを相談できる体制づくりに努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラー活用状況 延べ相談件数 500件(H21 466件) 面接472件,電話0件,家庭訪問8件 小学校派遣3件,その他17件</li> <li>・スクールアドバイザー活用状況 H21年度 5小学校(34件) H22年度 6小学校(46件)</li> <li>・スクールソーシャルワーカーを配置 ケース数 H21、39件→H22、62件</li> <li>・不登校児童生徒数 小学校H20(9人)→H21(14人)→H22(14人) H22年度不登校解消 4名(H21は7名) 中学校H20(52人)→H21(50人)→H22(48人) H22年度不登校解消 23名(H21は14名)</li> </ul> <p>○不登校児童生徒は依然多いが、SCやSSWと学校が連携することによって、確実に復帰者が増加している。今後も、さらに連携を強化し解消に向けて指導・支援を行っていく。</p>	A	A	B	A	<p>スクールカウンセラー、スクールアドバイザー、並びにスクールソーシャルワーカーの継続的な活用により、不登校の解消等の一定の効果が認められる。しかし、依然として不登校は少なくない現状がある。今後はさらに、スクールカウンセラー等の継続的活用を行いつつ、学習や学校生活等に悩みをもつ子どもたちの現状分析を続け、学校、家庭、地域社会、及びカウンセラー等専門家の連携を強化し、より広い視野に立ってケアの方法・内容を検討していただきたい。</p>
<p>3-1-5 地域・家庭教育の充実</p>	<p>就学前時期から、地域住民・保護者を対象として学習機会の充実を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月全小学校において、就学時健康診断を実施。また、その際には子育てや就学についての相談を受け付けた。</li> <li>・就学指導委員会において気になる子どもたちについて情報交換を行い、関係機関と連絡を取っている。</li> <li>健康診断に参加していない保護者には、文書や電話による受診勧告をした。</li> <li>・2月全小学校において入学に関する事前説明会を実施した。</li> </ul>	A	B	B	B	<p>「受診勧告」の結果やそれへの対応について具体的に示してほしい。また、気になる子どもたちについての関係機関との連絡後、具体的対応があれば記載してほしい。</p>

3-1-6 食育の推進	<p>健康な食生活の重要性を子どもたちが身につけるために、栄養・地産地消・衛生管理を踏まえた教育の充実を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年度から南原小学校に栄養教諭を配置。</li> <li>栄養教諭や栄養士が各小学校を訪問し、2・3年生で望ましい食習慣の育成や地産地消について指導を行った。</li> </ul> <p>○野菜栽培や総合的な学習の時間と関連させながら、指導を行っている。</p>	A	A	A	A	<p>栄養教諭の配置、各小学校への訪問指導、及び総合的な学習の時間の活用、本取組の着実な実行が認められる。</p>
	<p>安全・安心な給食への取組を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月～7月にかけて、教育委員会指導係、給食センター職員、栄養士が各学校に行き、環境衛生指導を行った。</li> <li>町内の米、野菜を購入している。</li> </ul>	A	A	B	A	<p>各機関が連携して環境衛生指導を実施していることを評価する。</p>
6-1-2 安心して産み・育てることができ る環境づくりの充実	<p>経済的な負担の軽減を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済的事情により就学が困難な児童生徒の世帯へ学用品費や給食費の一部又は全部を援助する就学援助についてチラシを児童生徒に配布して、制度活用を呼びかけたり、年度中途にも広報誌に掲載したりしている。また、入学式やPTA総会などで周知を図っている。</li> </ul> <p>平成20年度367名(小228中139) 平成21年度413名(小261中152) 平成22年度432名(小282中150)</p>	A	B	B	B	<p>就学援助制度の周知に関して、チラシや広報誌掲載等によって取り組んでいることが認められる。就学援助の必要な家庭については、今日特に流動的であるため、制度の周知と有効な活用のため行政のいっそうの努力が望まれる。</p>

## 2 生涯学習社会の実現

基本事業	主な取組	内容・成果	評価				評価委員コメント
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
3-2-1 参加・体験・交流の活性化	子どもを対象とした、海と山を活用したキャンプなどの自然体験の充実を図ります。	夏季休暇期間中に小学生高学年を対象としたサマーキャンプ(6泊7日)を竜岩自然の家・玄海の家で実施した。24人の参加者があり、体験を通じ、自然に親しみ、規律を守り、課題を克服して行く力を育む機会を提供した。	B	B	B	B	本取組への参加者の増加に向けた方策を期待したい。参加しやすい日程か、プログラムの内容は適切か、など検討されたい。
	誰もが遊び学べる施設として「等覚寺地区生涯学習施設」の整備を進めます。	等覚寺地区体験学習施設建設に係る地質調査を実施した。	B	B	B	B	地質調査の進捗状況と本取組の実現までの一定の「青写真」を提示いただきたい。
3-2-2 住民主体への学習環境づくりと人材育成の推進	自主活動グループが、主体的に活動するために、支援を進めます。	公民館、体育館講座の受講が終了し、自主サークルとして活動を継続する団体については1年間、サークル時の公民館等の使用料を半額減免している。(公民館12サークル)	B	B	B	B	公民館サークルの増加は評価する。
	「まちづくり」や「ひとづくり」に重点をおいた公民館講座を通して、リーダー、アドバイザーとなる人材づくりに努めます。	平成17年10月から人材育成の一環として、苅田まちづくりカレッジ講座を開催。現在、在校生35名また、卒業生74名程度の方が、それぞれの分野でまちづくり活動を行った。卒業生で苅田まちづくりカレッジOB会を設立し、町のイベント等に参画した。	A	A	A	A	取組は着実に実施されている。まちづくりカレッジ講座のいっそうの充実を期待する。
	施設管理において、町民が利用しやすい組織体制づくりを進めます。	施設の指定管理者制度への移行については、既に検討済みである。今後は、町民温水プールに指定管理者制度を導入することから組織体制づくりを進める。	B	C	B	B	「町民が利用しやすい」という取組の趣旨について、共通認識をもって進めて頂きたい。
	老朽化が進む施設を、バリアフリー化を踏まえて計画的に整備を進めます。	バリアフリー化は、昨年度までの福祉のまちづくり支援事業において、概ねバリアフリー化は実施した。	B	B	B	B	バリアフリー化の現状に対する町民や関係者等の意見を踏まえ、今後いっそうの充実を図っていくことを期待する。

3-2-3 人権学習の推進	啓発冊子「しおさい」等の活用を図り、人権学習の質的向上と内容の充実を図ります。	公民館講座において、7月と12月に人権教育講座を開催し、延べ399人が参加した。	A	A	A	A	参加者を維持していることは評価できる。今後「質的向上」に向け努力されたい。
3-2-4 図書サービスの充実	図書館サービスの環境整備（人的・物的・運営的）の充実を図ります。	移動図書館での保育園・学校等への巡回貸出の充実。 祝日会館、春夏秋冬休み期間中の月曜会館、木・金曜日の時間延長の継続。 22年度は、開館20周年を向かえ、「開館20周年記念」行事として多くのイベントを実施。 年度末の蔵書数は312,971冊で司書免許を持った嘱託職員を各館に配置している。	A	A	B	A	移動図書館、時間延長、嘱託職員の配置など、サービスの環境整備は着実に実施されている。
	インターネットによる、公立図書館と小・中学校、高等教育機関、大学等の情報ネットワーク化を検討します。	未実施	C	C	C	C	町民のネットワークニーズに関する調査を行い、新たな取り組み内容・方法を検討願いたい。

### 3 スポーツ・文化の振興

基本事業	主な取組		評価				
			有効性	効率性	達成度	総合評価	
3-3-1 スポーツ・レクリエーションの推進	勤労者、高齢者の健康づくりの一環として各種スポーツ・イベントの充実をめめます。	アジャタ大会・スポーツレクリエーション祭・ふれあいマラソン大会を実施した。また、幅広くスポーツに親しめるよう、荇田町体育協会等と連携し、各種スポーツ大会を開催した。	B	B	B	B	各イベントや各種スポーツ大会の開催に努力していることが認められる。各行事への参加者を示して頂きたい。また、利用できるスポーツ施設のHPでの公開と住民が施設利用しやすい体制づくりを期待する。
	地域スポーツクラブの設立に努めスポーツリーダー、指導者の育成を推進します。	今古賀ふれあいスポーツクラブが、地域スポーツクラブとして設立した。 町として、設立準備等に側面から支援を行った。	A	B	B	B	スポーツクラブ(今古賀)の設立に対する支援は大いに評価できる。一方で、スポーツリーダーや指導者の育成に関する成果等が記載されていない。
3-3-2 スポーツ施設の整備・充実	学校施設開放事業により、地域におけるスポーツ団体の育成を促進します。	町内小中学校の校庭と体育館の開放を行い、65団体が利用した。	B	A	A	A	開放事業は着実に進められている。



	町民プールが老朽化していることから、整備を進めます。	町民温水プールの実施設計が完了し、9月に建設工事を着工した。	B	B	B	B	
	総合運動公園の整備を検討します。	未実施	C	C	C	C	大型プロジェクトであり、町民や専門家等広く意見を求めて検討をして頂きたい。
3-3-3 芸術・文化の 振興	町民が多様な芸術文化に触れられる機会の充実に努めます。	一般町民の参加を広く呼びかけ、第32回を迎える町民文化祭を実施した。また、四季の音楽祭実行委員会主催のコンサートを通じ、町民の芸術文化意識を高めることを目的とし、海援隊、吉田次郎、等覚寺森、ふゆのおと等、年4回のコンサートを開催し、延べ約2,000名が鑑賞した。	A	B	B	B	参加人数が減ったとはいえ、町民への意識を高めたことは評価に値する。継続的な取り組みを期待したい。
	子ども向けなど、対象を絞った芸術・文化に触れる機会の創出に努めます。	馬場小学校では、「舞台芸術感動体験事業」の一環として、九州交響楽団（オーケストラ）による演奏会を鑑賞した。片島小学校では、「子どものための優れた舞台芸術体験事業」の一環として、神奈川フィルハーモニー管弦楽団（オーケストラ）の演奏会を鑑賞した。 夏休み子ども講座（10回）、冬休み子ども講座（2回）、その他の子ども向け講座（2回）を開催した。 小・中学校体験学習として、遺跡の発掘調査や出土遺物の整理・復元作業を行った。	A	A	B	A	積極的な取り組みは評価できる。ふるさと学習「子ども天神神楽」等、ふるさとの史跡、伝統に触れる機会を多くして頂きたい。
	自主活動のサークル、各団体等が協働して行う事業を支援します。	四館合同芸能フェスティバル実行委員会に補助金を交付した	B	B	B	B	
3-3-4 地域文化の継 承と保護	管理・保存を含め文化財等文化遺産の整備を推進します。	「等覚寺の松会」「苅田山笠」の保存のための記録作成、「御所山古墳」の整備のための発掘調査を行った。また、開発に伴う試掘・確認調査を33件、発掘調査を2件行った。「石塚山古墳」ほか8件のための草刈を行った。	B	A	B	B	発掘調査等の成果については、リーフレット、報告書にまとめ、機会を見てナイトスクール、郷土史会等との連携で公開して頂きたい。新たな部署、体制づくりを期待する。

<p>伝統無形芸能行事については、常設展示場の設置を含めた保存を支援します。（等覚寺の松会、苅田山笠）</p>	<p>歴史資料館内に、「等覚寺の松会」関係資料を常設展示した。また、「等覚寺の松会」「苅田山笠」の各保存会に助成金を交付した。</p>	<p>B</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	
<p>歴史案内ボランティアの確保に努めます。</p>	<p>ボランティアガイドを講師とする公民館講座を行った（1回）</p>	<p>C</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>C</p>	<p>本町の地域文化の継承と保護にとって、ボランティアの養成及び活用は重要である。今後地域振興課等との連携で継続して育成・確保に努めていただきたい。</p>